

平成29年10月25日(土) 時折り雨交じりの中で、中央区真砂通の生田川児童館の「ハッピー・ハロウィン」の催しが開催されました。



私たちの年代には余り馴染みのない“Halloween”（ハロウィン）。また、「お菓子をくれないといたずらするぞ!」“trick or treat”と大声で唱えてお菓子をせびる幼い子どもたちを見ていると、日本人の子供向けの祭りとして、何かしら考えさせられた、少し違和感?を抱いたイベントでもありました。

こんな印象を持った“ハッピー・ハロウィン”に、今回中央区会として初めて3名のチームでボランティア活動を致しました。



活動の内容は、幼児から小学生低学年の子どもたちとその父兄（総勢約200名）が、思い思いの衣装をして、近くの商店街（大安亭商店街及び周辺路地）を約2時間近く練り歩く中で、道路の安全確保（交通整理と子供たちの警護等）を担いました。

このイベントの原点は古代ケルト人の収穫・感謝祭とか。ケルトでは1年間は11月1日から10月31日までで、新年の11月1日に悪い精霊や神が現れると信じられ、大晦日の10月31日に死んだ人の魂が家族の元に帰り、更に悪霊や魔女が町をさまようとも云われ、死者の霊や悪霊を家に入れられないためにかがり火を焚いたと云われているそうです。（ケルトは現在のアイルランドやイギリス）

この古代の行事が欧米に広がり、当初の祭りの趣旨もかなり拡大的に解釈されながら日本にも上陸し、そして、古代の内容には程遠い中身になって来ているようです。日本では東京ディズニーランドのイベントに取り入れられて人気が拡大、今ではクリスマス以上の年間イベントになるような勢いです。

来年は、我々も衣装をして参加し、ボランティア活動ができることを楽しみにしたいものです。

（文・写真投稿：中央区会 島ノ江繁吉）

